

河村市長と脱原発で懇談

日本共産党名古屋市議団（7月6日）

未曾有の大災害である大震災と原発事故は、国民の力を結集し長期にわたって打開すべき国政最大の課題であり、日本の政治のあり方を問う大問題です。日本共産党は、救援や事故収束など緊急課題では政治的立場の違いを超えて力をあわせるとともに、復興のあり方と財源問題、原発・エネルギー問題で積極的な提言を行ってきました。

日本共産党の積極的な提言に大きな関心

原発事故の問題では「原発からのすみやかな撤退、自然エネルギーの本格的導入を。国民的討論と合意をよびかけます」（以下、「提言」）を6月13日に発表し、各分野の方々との懇談と共同を広げるとりくみをすすめています。さらに、不破哲三日本共産党社会科学研究所所長が「『科学の目』で原発災害を考える」と題して行った講義（5月10日）をパンフレットとして発行し、広く普及する活動にもとりくんでいます。

原発から命と健康を守ろうと市長によびかけ

7月6日、日本共産党市議団は、名古屋市民の不安に応え、原発からの撤退と自然エネルギーの本格的導入への一助となることを願い、河村市長に「提言」とパンフレットを紹介しながら原発問題について懇談を行い、原発から命と健康を守る課題で広く連帯をつくりましょうと河村市長によびかけました。

「浜岡原発の永久停止に挑戦」（市長）

河村市長は、3月議会での日本共産党議員の浜岡原発問題の質問に「私は原発の安全神話はいっさいない。原発は危険なものだ」と答えていました。懇談の中で田口議員が、「市長は本会議で脱原発に挑戦すると言っていていましたね」と問いかけると、河村市長は、「それは間違いはない。脱原発しないかん。電力会社の1社独占はよくない。太陽熱などの自然エネルギーを大いに進めていくべきだ」という考えを示しました。

わしの恵子団長が浜岡原発の永久停止を求めると、



河村市長は「いいチャンスだととらえ、（永久停止に）挑戦せないかん」と答えました。

「北陸の原発を調査（市長）」

「北陸の原発で事故が起これば、木曾川の水に大きな影響を及ぼす。北陸の原発に調査に行くつもりだ」という河村市長に、党市議団は今月中にでも調査に出かけるよう求めました。

河村市長は、原発からの撤退については明言を避けましたが、原発の危険性や自然エネルギーの本格的な導入では、日本共産党と意見が一致しました。

河村たかし市長と懇談する日本共産党市議団「7月6日。下は河村市長にも渡した不破さんの原発パンフ

「科学の目」で原発災害を考える

不破哲三（日本共産党社会科学研究所所長） A5判40ページ150円

【目次内容】

原子力の利用をめぐる二つの不幸
最初の実用化が核兵器だった
動力炉も戦争目的で開発された
原子力発電は「未完成」で危険な技術
原子炉の構造そのものが「不安定」
使った核燃料の後始末ができない
日本共産党は最初の段階から安全性抜き
の原発建設に反対してきた
これまでの国会質問から
形だけの審査体制。使用済み核燃料の
危険性（1976年）
スリーマイル事故の教訓もそっこのけ
（1980年）
東海大地震の予想震源地でなぜ原発増設を認めるのか（1981年）
国際条約違反を承知で「推進機関」に規制を任せる（1999年）
大災害でも司令塔を立てられない日本の体制
専門家といっても何の専門家なのかが問題
福島原発から何をくみ取るべきか
利潤第一主義がここまで徹底していた
原発版「ルールなき資本主義」と歴代日本政府の責任
二つの問題 原発からの撤退の戦略的決断と安全優先の原子
力管理体制と

【資料】「原子力問題にかんする決議」（1961年）から

